

**組織名** 独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構近畿中国四国農業研究センター綾部研究拠点

**組織情報**

所在地 (代表組織)	京都府綾部市上野町上野200
サイトアドレス	農研機構 <a href="http://www.naro.affrc.go.jp/">http://www.naro.affrc.go.jp/</a>
連絡先	電話 0773-42-0109
	FAX 0773-42-7161

**組織概要**

管轄・組織体制など

・近畿中国四国地域の特徴である中山間地および傾斜地における農業のさまざまな課題の解決と地域の活性化を目指して、研究・技術開発に取り組んでいます。



近畿中国四国農業研究センター  
①福山本所  
②四国研究センター(仙遊、生野)  
③綾部研究拠点  
④大田研究拠点

所掌事務・担当業務

綾部研究拠点は京都府綾部市に所在し、内部組織として管理課(綾部管理チーム)、環境保全型野菜研究領域、研究支援センター(業務第1科綾部)が置かれ、各業務を担当しています。

なお、職員は平成24年7月1日現在で27名在職し、業務を遂行しています。

**企画管理課綾部管理チーム**

職員の福利厚生、公文書類の接受、発送及び審査、情報公開、個人情報の保護、予算管理、物品購入、役務、修繕、資産管理その他

**環境保全型野菜研究領域**

化学農薬の使用量を減らして持続的・安定的な環境保全型の野菜生産を行うために、土壌病虫害の診断技術を開発するとともに、病虫害抑制および生長制御に有効な耕種的技術を開発し、栽培体系の確立を図ります。

**メタゲノム解析等を用いた土壌病虫害被害の予測・診断技術の開発**

被害度の適切な予測・診断法が開発されていないため、本来なら不要な農薬が使用される傾向が見受けられます。

これまでに、土壌病虫害の発生と土壌生物の関連を研究してきました。

線虫の定量法として、熟練した技術や労力を要する従来法に比べ、土壌から抽出したメタゲノム(環境中から直接得た多様な生物のDNAなどゲノムの集合体)を用いた簡便で迅速な方法を開発しました。

第3期においては、線虫や糸状菌等による野菜の被害について、メタゲノムを用いた高感度定量法の開発や、要防除水準の作成を行い、これらに基づいた病虫害リスクの予測・診断技術を開発して環境保全型野菜生産システムを構築します。

**地域未利用資源を活用した環境保全型土壌還元消毒技術の開発**

土壌病虫害防除として行われる土壌還元消毒には、有機物としてフスマや米ぬかが使用されます。

さらに高い消毒効果をあげるため、抗菌物質が含まれるカラシナなどのアブラナ科植物を、前作に栽培して鋤込む方法を開発しました。

この方法では有機物の購入費がかからず、入手が容易などの利点があります。

第3期においては、カラシナに加え、ブロッコリーなどの収穫残さやカブの漬物加工残さなど、これまで廃棄されていた地域未利用資源を活用し、より低コストで効果的な環境保全型の土壌還元消毒技術を開発します。

**生育制御・病虫害防除に有効な光環境制御技術の開発**

持続可能な環境保全型農業生産を実現するために、今後、革新的な技術の創出を期待されているのが光環境制御技術です。

これまでに、光質変換資材による虫害防除効果と資材の経年変化を検証し、イチゴへの影響が小さい防蟻灯の光質の特定、ホウレンソウのアスコルビン酸(ビタミンC)含量と収穫前の日射量との関係を明らかにしました。

第3期においては、ホウレンソウやイチゴにおいて収量や品質の向上、病害虫防除を可能とする、新規の光質選択性被覆資材や照明技術、遮光栽培法を含めた実用的な光環境制御技術を開発します。

**研究支援センター業務第1科(綾部)**

研究支援、環境整備その他

組織名	独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構近畿中国四国農業研究センター綾部研究拠点
-----	---

## 防災に関する取組など

- 近畿中国四国農業研究センター綾部研究拠点防火対策委員会要領の制定
- 近畿中国四国農業研究センター非常時緊急連絡網及び綾部研究拠点非常時緊急連絡網の制定
- AEDの設置
- 居室前廊下にヘルメットの設置
- 各種訓練の実施
  - ・年に一度、消防・避難訓練を実施
  - ・平成24年度消防署による普通救命講習(心肺機能蘇生法、AED講習)を受講